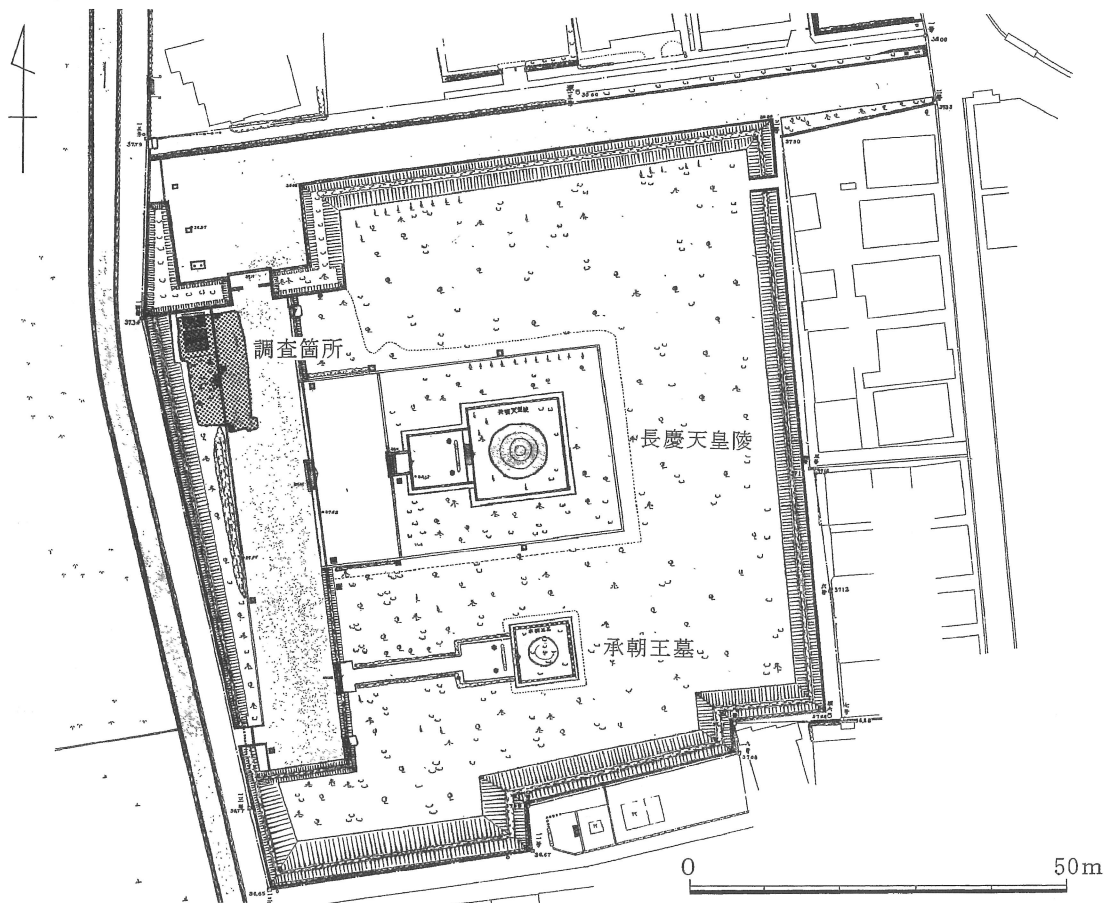


長慶天皇 嵯峨東陵嵯峨部事務所改築工事に伴う立会調査

長慶天皇嵯峨東陵は、JR山陰本線（JR嵯峨野線）嵯峨嵐山駅の南へおよそ0.4km、京都府京都市右京区嵯峨天竜寺角倉町に所在しており、同域には天皇の皇子である承朝王（海門承朝）墓もある（第37図）。長慶天皇は長らく即位が疑問視されており、皇統の列に加えられたのは大正15年のことである。これは天皇の事績を示す記録がほとんど残されていないことによるが、天皇の陵所についても記録は残っておらず、現在地は長慶天皇とゆかりが深いとされた天竜寺塔頭慶寿院の跡地を昭和19年に治定したものである⁽¹⁾。現在地治定にいたるまでには、昭和16年に宮内省が慶寿院跡地を陵墓参考地とすることを決定し、それを受けて17年に帝室林野局が買収、18年に諸陵寮へ移管、整備工事が行われ、19年の治定と本格的な整備工事、といった経緯をたどっている⁽²⁾。買収以前には家屋や耕作地があり、18年の整備工事では、外周は仮の板囲いの設置であったが、現在の墳塋付近となる敷地中央部については土を入れ替える大がかりな工事が行われている。19年の工事で北側の参道周辺と西側の拝所周辺、中央部の墳塋付近については、現状とほぼ変わらない姿に整備されている⁽³⁾。

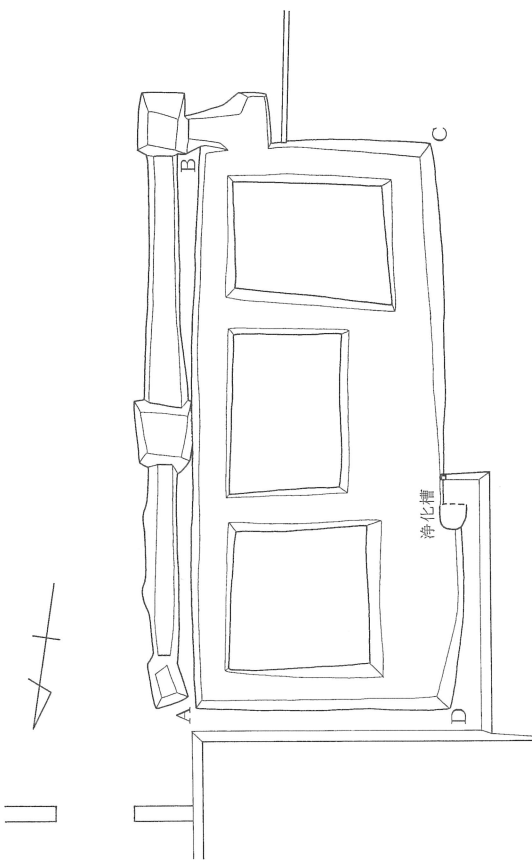
本陵における過去の調査事例としては、平成6年に行われた鳥居改築工事に伴う立会調査がある⁽⁴⁾。

今回の調査は、陵前に所在する桃山陵墓監区嵯峨部事務所が老朽化と機能強化のため改築されるに際し行ったものである。工期は平成20年11月1日～平成21年3月23日で、実際に掘削等の作業が行われた平成20年12月11日～平成21年2月27日の期間中は随時現地職員が立ち会い、特に事務所本体の基礎掘削が行われた平成20年12月15～18日には本部職員が参加して調査を行った。また、本部立会期間中の12月18日には歴史・考古学関係16学・協会の代表者に対する現地公開を実施している。なお、京都市文化財

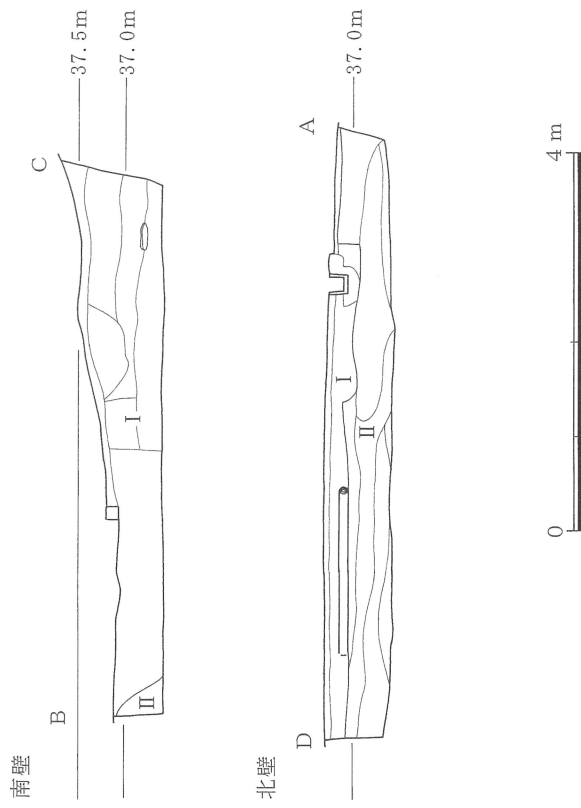


第37図 嵯峨東陵 地形図および調査箇所位置図 (1/1000)

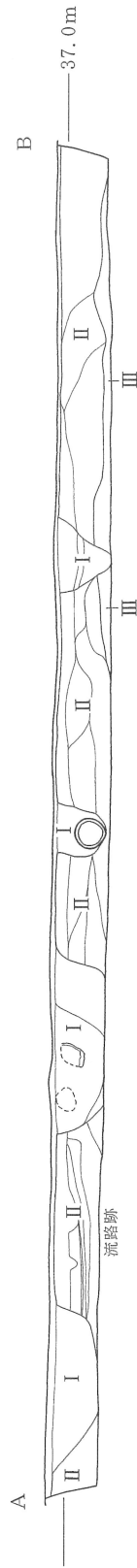
1 平面図



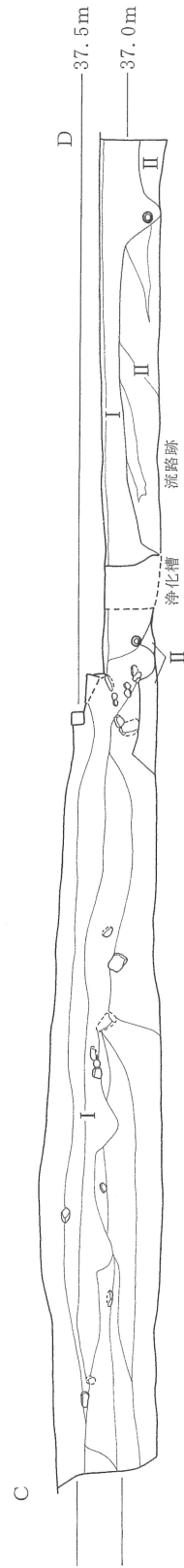
2 断面図



東壁



西壁



第38図 嵯峨東陵 調査箇所平面図 (1/200) および断面図 (1/80)

保護課の宇野隆志氏、家原圭太氏、(財)京都市埋蔵文化財研究所の長宗繁一氏、平方幸雄氏、近藤奈央氏には現地にご足労いただき、数々のご教示を受けた。記して謝意を表します。

今回の工事では、部事務所本体の基礎箇所のほか、付帯施設としての雨水枡・排水管の設置箇所、電線引込み柱・電気配管の設置箇所、手水鉢の移設箇所などで掘削が行われた。主たる掘削箇所である部事務所基礎箇所は、長さおよそ15.5m、幅およそ6.6mの範囲のうち、壁体が設置される箇所をおおよそ「目」の字形に幅1～2m、深さおよそ0.7mの溝状に掘削した(第38図1、図版20-7)。

部事務所基礎箇所の土層はその性格から3種類に大別できた(第38図2)。I層としたものは陵墓地となって以降の整備に伴って形成されたと思われる土層である。参道に敷き詰められた白砂層や各種埋設物の掘方埋土などごく最近のものから、昭和19・20年に整備された際の陵墓地外縁をめぐる土堤や敷地の盛土などが含まれる。対してII層としたものは陵墓地となる以前の盛土および二次堆積したと考えられる土層で、III層は地山層と考えられる土層である。III層は掘削箇所のごく一部で確認できたのみであり、今回の掘削箇所は陵墓地となる以前に造成された盛土内にはほぼ収まっているといえよう。

掘削箇所内においては遺構の存在は確認されなかったが、東壁のIII層中に流路跡と思われる土層が存在するのを確認した(図版20-8)。黄灰色粘質土と赤褐色砂質土が互層になっており、若干様相が異なるものに対応すると思われる土層は西壁にもみられる。流路内には赤褐色、白色を呈する土師皿片が含まれていたが、細片のため時期の確定にはいたっていない。

出土品の総数は39点で、前述の土師皿のほか、瓦、埴、須恵器、磁器、陶器などがある(第39図)。瓦(1～3)と埴(4・5)は近世以前に遡るものと思われ、慶寿院に関わるものが含まれている可能性もある。また、須恵器片は(6・7)は近くに古墳が存在していたことを示すものであろう。

以上、今回の掘削範囲には当初予想された慶寿院に関わるものと思われる遺構は認められず、工事は予定通りに施工された。(有馬 伸)

註

- (1) 天竜寺塔頭慶寿院は承朝王が止住し王の終焉の地ともなった寺院で、長慶天皇の別称として「慶寿院」の称号を用いる史料があることから、天皇の供養所と推測されたものである。

中村一郎「嵯峨東陵(さかのひがしのみささぎ)」国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第9巻(たか〜)、吉川弘文館、1988年。

- (2) 「長慶天皇後由緒地京都市右京区嵯峨天竜寺角倉町所在慶寿院跡地ヲ陵墓参考地トシテ購入ニ関スル件」帝室林野局『地籍録』昭和18年 本局ノ部2 陵墓1。

- (3) 「慶寿院址地整備ノ件」内匠寮『工事録』昭和18年6 京都御所其他ノ部。

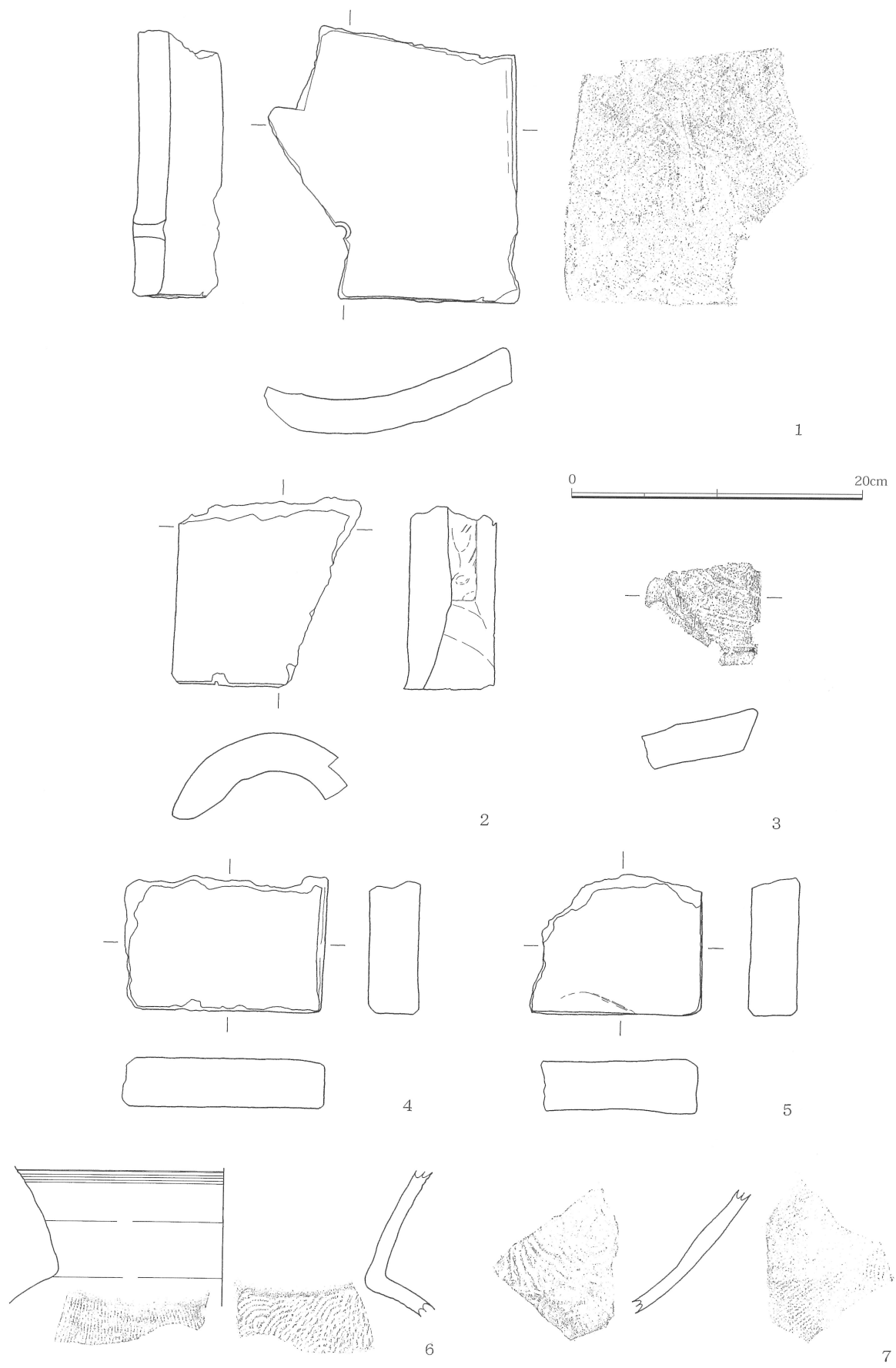
東側と南側の整備工事は昭和19年に南側隣接地を買い上げて敷地を拡張した後の昭和20年に行われている。

「京都市右京区嵯峨天竜寺角倉町所在長慶天皇嵯峨東陵拡張敷地購入ニ関スル件」帝室林野局『地籍録』昭和20年 本局ノ部東京地方局ノ部。

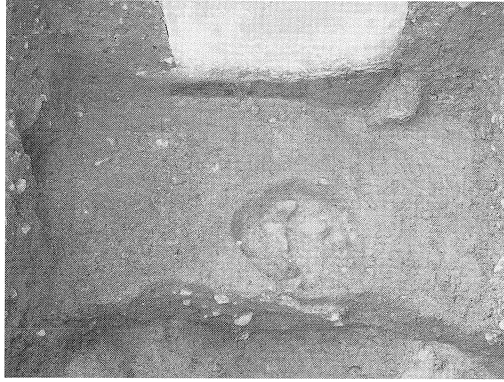
「嵯峨東陵並承朝王墓一般拝所土堤一部取設其他工事ノ件」内匠寮『工事録』昭和20年5。

「同(※嵯峨東陵並承朝王墓)南東側外構石垣並土堤築造工事ノ件」内匠寮『工事録』昭和20年5。

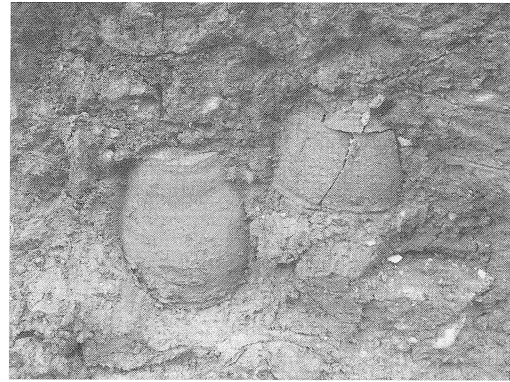
- (4) 川田貞夫「平成6年度 陵墓関係調査概要」『書陵部紀要』第47号、1996年。



第39图 螻峨東陵 出土品実測图 (1/4)



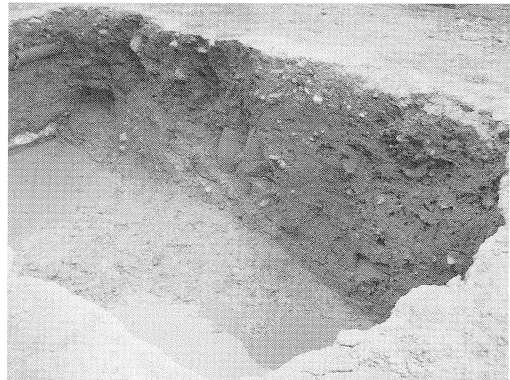
1 春日率川坂上陵
落ち込み1～3 (東から)



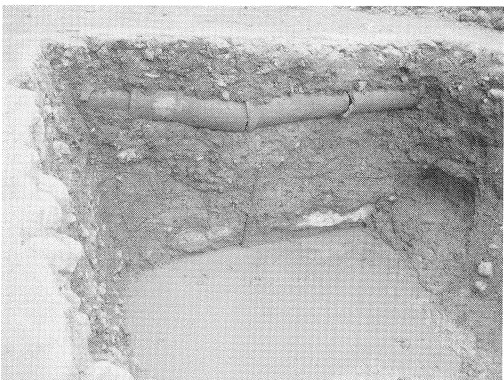
2 春日率川坂上陵
遺蔵骨器14・15 (北から)



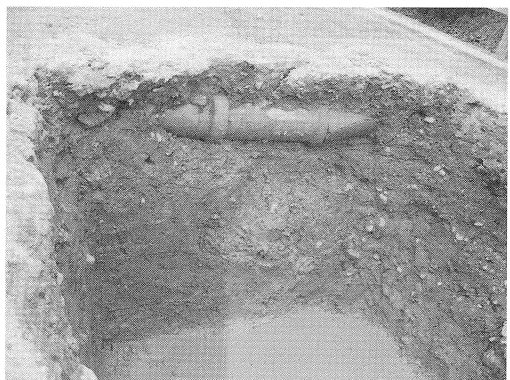
3 春日率川坂上陵
掘削箇所完掘後 北壁



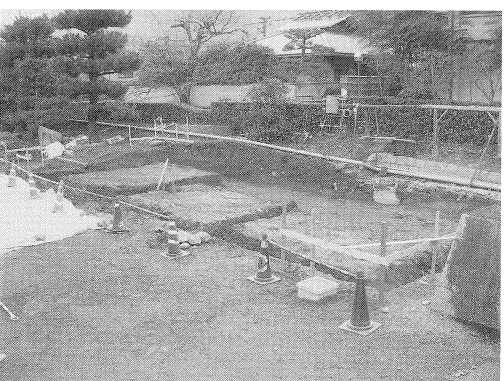
4 春日率川坂上陵
掘削箇所完掘後 南壁



5 春日率川坂上陵
掘削箇所完掘後 東壁



6 春日率川坂上陵
掘削箇所完掘後 西壁



7 嵯峨東陵 部事務所基礎掘削箇所
全景 (北東から)



8 嵯峨東陵 部事務所基礎掘削箇所
北壁流路跡